

人文系/基礎科目

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
哲学 A		現代哲学入門	関 修	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	現象学、生の哲学、言語哲学、実存主義、構造主義		
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける			
事前に受講するとよい科目		特になし			
講義の目的	西洋哲学が西洋文明をどのように基礎づけ、支えてきたかを考察する。その際、とりわけ現代諸科学がどのような関係性にあつたかを充分考慮する。また、二度の世界大戦など、理性信仰が大きく揺らいだ後に、現在をどう生きるべきかを考える。				
到達目標	西洋のものの考え方を知り、いかに「合理的＝理性的」即ち「論理的」に考える必要があるかを理解し、受講者自身がそれを体現できるようにする。また、その際「言語」がいかに大切かを実感できるようにする。				
講義内容	二十世紀の西洋哲学を概観する。二十世紀は「言語の世紀」と言われるように言語をどう考えるかをその基礎において話を進める。また、当然のごとく、諸科学との関係、また、二度の世界大戦など歴史的な状況もかんがみて講義する。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	ガイダンス	哲学とは何か？この講義の勉強の仕方について		
	第2講	はじめに	現代の始まり 十九世紀末の精神状況		
	第3講	世界大戦前の哲学 I	現象学 フッサール		
	第4講	世界大戦前の哲学 II	生の哲学 ニーチェ、ベルグソン		
	第5講	世界大戦前の哲学 III	言語学、言語哲学 ソシュール、ヴィトゲンシュタイン		
	第6講	実存主義 I	サルトル 『存在と無』		
	第7講	実存主義 II	メルロ＝ポンティ 『知覚の現象学』		
	第8講	実存主義 III	ハイデgger 『存在と時間』		
	第9講	構造主義 I	構造主義とは何か 諸学とのクロスオーバー		
	第10講	構造主義 II	レヴィ＝ストロース 文化人類学		
	第11講	構造主義 III	ロラン・バルト 文学・文化批評		
	第12講	ポスト構造主義 I	フーコー 権力と性		
	第13講	ポスト構造主義 II	ドゥルーズ アンチオイディプス		
	第14講	ポスト構造主義 III	デリダ 脱構築と歓待の哲学		
第15講	まとめ	これからの哲学の行方			
指導方法	講義中心。毎回、グーグルクラスルームを用いて、質問・感想・意見を「課題」として出し、次回それらに回答する。				
事前学習	クラスルームに掲載された次回の授業の資料に目を通す等、30分程度。				
事後学習	グーグルクラスルームの「課題」機能を用いて、次回の講義の前日までに質問等を必ず提出すること。また、参考文献なども掲示するので必要のある者は適宜読むと好ましい。時間としては「課題」だけであれば、30分もあれば充分であろう。				
成績評価方法	平常点（授業内発言、課題の提出回数・内容）70%、本試験（筆記試験、すべて持ち込み可）30%				
テキスト	特に定めない				
参考書籍	アルトヴェーク／シュミット、小野島・関他訳、『グラウンド・ゼロ』（富士書店）他は適宜紹介していく。				
特記事項	講義中の私語は禁止 減点の対象となります				